

○子どもの声の騒音について

Q 現代社会は24時間体制なため、夜勤務し、昼間寝ている人もいる。路上や空き地、駐車場など子どもが遊ぶべき場所ではないのに遊んでいる子どもがいる。子どもが遊ぶべき場所であれば納得がいくが、子どもに注意をしたら、「公園は蚊がいるから遊びたくない」と言われた。さらには帰宅チャイム後も親が一緒になって遊ぶ始末である。

また、遊ぶ場所が道路である場合も多く、車輪のついた靴で疾走し、悲鳴を上げ続ける子どもは危険極まりない。注意しても悪びれることもなく親が逆ギレする時代で、行政が注意してくれなくては注意した方も危なくて生活できない。

行政として遊ぶべき場所を明確にし、危険行為や住宅街での遊びを注意するなど学校と行政で指導できる体制づくりをお願いしたい。家庭でしつけのできない親が増えているので。

A 品川区では、小学生の放課後の安心・安全な居場所づくりとして、全小学校において「すまいるスクール事業」を実施しています。また、0歳から18歳未満の児童が利用できる施設として児童センターを運営し、いずれも様々な遊びを通じて児童の健全育成を図っており、人に危険や迷惑を及ぼすような遊び方をしないよう指導に努めているところです。子どもへのしつけのあり方は、各家庭における保護者の責任に帰すべきものとは考えますが、近年、家庭における教育力が低下していることは認識しております。

このため行政としまして、子どもを持つ保護者向けの講座などを通して、親育ちの支援にも取り組んでおります。なお、品川区教育委員会におきましても、家庭の教育力を向上させるため、地域、PTAによる子ども見守り運動（83運動）の支援や、「親の勉強室」として家庭教育学級をPTAに委託しています。

また、26年度からは学識経験者やPTA、校長も含め家庭における教育力の向上を支援する取組の準備も進めていますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

(子ども未来部子ども育成課)